

再発見 ふるさと風土記 上新城の伝説 シリーズ

② 消えた春子姫

上新城郷が昔、出羽国秋田郡沢の内と呼ばれていた頃、愛染という郷があった。愛染の村長には花のような一人娘がいて、名前を春子といい、桃の花のように美しく村人たちは愛染明王堂の生まれ変わりだと噂していた。

春子が16歳になった頃、凛々しい若者が現れた。若者は湯香の又郷にある不動院の寺小姓で、月に二度三度、愛染の郷を訪れるのでいつしか好き合う仲となった。

二人は、待ちわびる気持ちを互いに笹舟を谷川に流して知らせ合った。

親たちも大いに喜び、春子の父は「若者を婿殿に迎えよう」と愛染院の近くに立派な新居を建てた。村人たちは「春子の館」と呼んだ。

婚礼の日も決まり、いつものように使いに向かおうとした矢先に、いまだかつてない大地震が襲って来た。沢はズタズタに裂かれ、湯香の又へ通じる道は跡形もなく埋まってしまった。

沢には見たことのない大きな滝ができて、その片隅に一片の男物の小袖がまわりついていて、若者の着衣の一部だった。

春子は魂をなくした抜け殻のように、涙を流す日が続いた。川にこぼれる春

子の涙がやがて小さな滝へと変わっていった。

ある日のこと、笹舟が二つ寄り添うように流れてくるのを村人が見つけた。春子に伝えようと館に向かったが、春子の姿はなかった。春子は大滝のほとりで、ひとり笹舟を流していたそうだが、以来、春子を見た人はいない。

若者を呑み込んだ谷の大滝を「雄滝」。春子の涙がつくった小滝を「雌滝」と呼び、一対をなしている。愛染の地を訪れた菅江真澄は、この「雄滝」「雌滝」の二つを描き「女、ここに失せし物語あり」と書き添えている。

郷土史研究家 永田 賢之助



上新城のペット物語



vol.2 若狭家の秘蔵っ子、その名は…

犬種は柴犬、年齢は5歳のオス。名前は、武蔵。

毎朝5時「クーン、クン、クン」我が家の武蔵の朝は早い。(おそらく新聞が届く頃には起きているであろう…)その後、父とのいつものルートで散歩が始まる。夏場は1時間、途中我が家の田んぼの様子を父と一緒に確認する。地域の人からは「武蔵くん、おはよう」と声をかけてもらえる。最初の頃は人見知りしていたが、今では武蔵の方から地域の人に会いに行く。雨が降ろうが、雪が降ろうが、武蔵の散歩に休みはない。還暦を超えた父と武蔵の体力は反比例している(笑)

好きな食べ物は鶏のササミで、ササミをもらう時のお座り、お手、おかわりの流れは素晴らしい(笑)(それ以外の時は気まぐれでやる時とやらない時有り)

武蔵にとって、上新城は自然豊かで心温かい地域の人がいる最高の環境なのではないかと飼い主は感じる。これからも長生きして我が家のアイドルでいてね♡

若狭 晃裕(中町内)

人、モノ、風景
上新城
の宝物

ふたつの匂いの話

懐かしい匂いの話です。

ひとつ目は朴葉(ほおば)の匂いです。昔は、田植えや稲刈りどきになると、村中や親戚の人達が集まり協同作業が始まります。もちろん機械などなかった時代ですから、すべて手作業になります。にぎやかで活気に溢れておりました。そのときの昼食に振る舞われるのが、朴葉に包まれた赤飯やきな粉のご飯です。田んぼの畔で食べるとき、かすかに朴葉のとても心地良い匂いがしたものです。

ふたつ目は蛍の匂いです。



家の前の小川で虫捕りをして遊ぶ妹の幸子さん

今はコンクリートの側溝になってしまいましたが、昔は家の前を小川が流れておりました。夏になると数え切れないほどの蛍が飛び交います。ほうきを持って夢中で捕まえました。小瓶に入れた蛍を、寝るときに蚊帳の上にばらまきます。そのとき、蛍の放つ独特の匂いがします。さながらプラネタリウムのように、興奮してなかなか眠れなかったものです。

目で見た記憶は年々薄れていきましたが、不思議と匂いの記憶は今も鮮明に残っております。なぜなのでしょうね…。

湯の里町内会会長 鈴木 克美



さとぴあだより

1月



October 15 さとぴあ講座レポート 「蜜蝋キャンドルと陶の燭台作り」

10月15日、さとぴあで「蜜蝋キャンドルと陶の燭台づくり」の講座を開催しました。蜜蝋キャンドルを作り、それを載せる燭台を作る2部構成の講座となりました。キャンドルの講師は、「ノアキャンドル」という教室を主宰している作家の森澤愛理さん。ディッピングという芯の紐を繰り返し蝋に浸し太くする方法で作りました。直径13ミリくらいです。

蜜蝋は、ミツバチの巣の材料です。働きバチは花の蜜を材料にして体内で蜜を合成して、腹部にある蝋腺という器官から蝋を分泌します。そして、蝋と花粉を口の中で混ぜ合わせて巣を作ります。蜜蝋は甘い香り、さわやかな香りと様々です。ミツバチの酵素が混ざり、香りに個性が出てきます。

蜜蝋キャンドルの効果にはアロマテラピーなどの効果があります。炎を灯すことでリラックス効果もあり、さらに保湿効果が優れているので、化粧品やクリームなどにも用いられる特別な成分を持っています。天然100%の蜜蝋アロマキャンドルから発生する不思議な力が体験できます。燃焼すると、空気中のウイルス、カビ、花粉、ダニなどを包み込み、さらに多量のマイナスイオンが発生します。

作家の森澤愛理さん



陶芸家の森田勇さん



森澤先生とみなさんで和気藹々とディッピング作業中！

みなさん熱心に森田先生の実演を拝見！勉強になります！



「蜜蝋キャンドル作り」

キャンドルが完成し、燭台作りに移りました。講師は須恵沢窯の陶芸家・森田勇さんです。完成した数種類の見本で作陶の工程を説明してくれました。粘土を練り参加者それぞれが、ロクロや板の上で好きなように形を作っていました。時折、森田先生の冗談もあって、作陶しながら笑顔や笑い声が生まれて、とても楽しい時間となりました。燭台の形が決まったら、蜜蝋を立てる部分を接着させて、全体を眺めながら仕上げとなりました。それぞれが好きな色を決めて、最終完成は1カ月後となります。寒い季節も、暖を取りながら、やさしい蜜蝋キャンドルを素敵な燭台に載せて灯せば、ほんのりと癒されロマンチックな気分となるでしょう。



寄せ集めあれこれコレクション

ち 珍 ち

“NANICOLE”

懐かしい時代の郷愁を誘うモノからアート作品などの“不思議と存在感のある”逸品、名品、珍品の数々を展示します。

日時 令和5年1月31日(火)まで 10:00~18:00

場所 さとぴあ玄関展示ホール

入場無料

入場無料

つるし飾り展

上新城ゆりの会

上新城の婦人グループ「ゆりの会」メンバーが作ったつるし飾りを展示します。わが子の健やかな成長を願って作る“つるし飾り”は、現代まで受け継がれてきた可愛いモチーフのひとつひとつに優しく深い想いが込められています。

日時 令和5年 2月~3月末まで 10:00~18:00

場所 さとぴあ 玄関展示ホール

令和5年度 援農ボランティア

ボランティア・受入農家を大募集!!

- 活動はボランティアさんの希望する日時でOK!
- 短時間の参加も大歓迎!
- 農作業で気分リフレッシュ!
- 人手が欲しい方
- 市民と交流したい方♪
- 緊急で人手が欲しいときも対応します!

ボランティア・受入農家 合同オリエンテーション参加申し込み受付中!

日時 **3/4(土) 13:00~14:30**
※お申込は2/26(日)まで

場所 秋田市役所3F センターズ

お申込お問合せ E-mail:ennou@satopia.akita.jp
TEL:018-893-3412(10時~18時)

1月の講座一覧

1/15 日 小正月行事なまはげ、餅つき体験

1/21 土 きりたんぼ味噌鍋づくり体験

1/29 日 陶芸体験 白ねんどで作るおひなさま(立雛)

「上新城さとぴあだより・ふるさと瓦版」は、上新城地区の瓦版です。次号の配布は、3月2日・3日の予定です。地区の皆さんにお知らせしたい情報がありましたら、「さとぴあ」までお寄せください。今年も「さとぴあ」をよろしくお願いいたします!